

其時ニ不知ヌ僧、寺ノ門ニ出來テ、此ノ犢ヲ見テ云ク、惠昧法師ハ生タリシ時、涅槃經ヲ明暮讀奉シカドモ、車引ク事コソ哀ナレト、犢此レヲ聞テ、涙ヲ流シテ忽ニ倒レテ死ヌ、犢ノ主此レヲ見テ、大ニ瞋テ、其不知ヌ僧ヲ詈テ、汝ガ此ノ牛ヲバ咀ヒ殺シツル也ト云テ、即チ僧ヲ捕テ、公ニ將行テ此由ヲ申ス、公ケ此ヲ聞シ召シテ、其故ヲ令問給ハムトシテ、先僧ヲ召テ見給フニ、僧ノ形有様端正ニシテ、只人ト不見ヘ、而レバ驚キ恠ミ給テ、忽ニ咎行ハム事ヲ恐テ、淨キ所ニ僧ヲ居ヘテ、止事无キ繪師共ヲ召シテ此ノ僧ノ形チ有様世ニ不似端正也、而レバ此形ヲ不認書テ可奉ト、繪師等宣旨ヲ奉リテ、各筆ヲ振テ書寫シテ持參シタルニ、公此レヲ見給フニ、本ノ僧ノ形ニハ非ズシテ、皆觀音ノ像也、其時ニ僧搔消ッ様ニ失セヌ、然レバ公ケ驚キ恐給ヒ事无限シ、其現ニ知ヌ、觀音ノ惠昧ガ牛ト成レルコトヲ、人ニ令知ムガ爲僧ノ形ト成テ示シ給也ケリ、牛ノ主此ヲ不知シテ、僧ニ咎ヲ行ハムト爲ルコトヲ悔ヒ悲ビケリ、人此レヲ以テ可知、一塵ノ物也ト云トモ、借用セシ物ヲバ慥ニ可返ヌ也、不返シテ死スルハ、必畜生ト成テ、此レヲ償也トナム語リ傳ヘタルトヤ、

〔老人雜話〕高麗陣の時、太閤、日根備中を高麗へ使に遣す、備中甚貧く支度成がたし、三好新右衛門を介媒にして、銀を黒田如水に借る、如水銀百枚をかす、備中歸朝して、新右衛門と同道し、如水へ往て禮を云、銀百枚外に拾枚持參す、利息の如水對顔し、暫くありて、人を呼て、さきに人の吳たる鯛を、三枚にをろし、其骨を吸物にして、酒を出せよと云ふ、兩人心に不足す、酒訖て、三好銀を取來て禮を云、如水云、初より借す心無し、合力の心なりとて、再三強ても取らず、二人甚だ感じて歸りけるとぞ、

〔明良洪範十九〕稻葉美濃守老職を勤仕せられし時は、浪人者玄關へ來る、取次の者へ申し入けるは、私こそ浪人にて、久々困窮仕に、今は餓死にも及ぶべく候仕儀に相なり候、御家を見かけ推參仕り候、何とぞ御芳志を以て、金子百兩拜借仰せ付られ下され候らへと、誠に餘儀無體に申しけ